

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

湯浅町の妊娠期から学齢期まで切れ目のない支援
～保健・福祉・教育と連携した年中児の集団健診を含めた継続支援プログラム～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

湯浅町健康福祉課保健係

代表者：金森 敏代

勤務先：湯浅町役場

所 属：健康福祉課

所在地：〒643-0002

和歌山県有田郡湯浅町青木668-1

TEL：0737-63-2525

FAX：0737-65-3006



◇活動方針

湯浅町の子育てにおいても、年々社会から孤立した親だけの子育てや、子どもへの接し方がわからない、子育てに自信をもてない親が増加している。又、本来家庭で身につけるべき、基本的な生活習慣と安定した愛着の形成を獲得しないまま幼児集団に入る子どもが目立ってきている。そのような状況を明確に捉えるために、平成24年度、教育委員会の協力のもと、町内保育所・幼稚園・小学校・中学校において職員向けに集団の中での理解力・集中力・社会性等のアンケート調査を実施した。その結果、保育所・幼稚園では約3人に1人の割合で理解力・集中力・社会性の弱さを抱える子どもがいることがわかった。

湯浅町の子どもを取り巻く行政機関も母子保健と学校教育の間で子どもの情報のフィードバックが実施されていない現状がある。そこで、就学前からの学校を見通した支援が、幼児の所属する場で適切に実施されているのか評価する必要があると考えた。さらに母子保健・保育所幼稚園・学校が相互に情報共有し、共通認識を持ち、共通の評価指標を作り出し、切れ目のない子どもの発達を保障・支援する継続プログラムが必要であると考えた。そのひとつの手段として町内の全年中児を対象に町内施設ごとに保健・福祉・教育の担当者が共に出向きモデル事業としての子どもの健診を実施し、保健・福祉・教育が同じ目標で子どもの課題・保育所等施設の課題・保護者の課題・地域の課題を検討する。

以上を実施することにより保健・福祉・教育が協働に連携した継続支援プログラムを開発し、各分野の役割を効果的に実施していく。

活動成果報告書

◇活動内容

目的：① 要支援児の早期発見・早期支援

② 学齢期の二次的不適応の予防

③ 保健・福祉・教育の分野が円滑に情報共有し、切れ目なく子どもの発達を支援する

目標：① 年中児健診による、子どもたちの個々の課題および保育の課題の明確化

② 就学前の年長児の1年間を各機関と親が共通課題を持って、子どもへの関わりを充実させる

③ 学齢期の二次的不適応を予防する

④ 将来を担う子どもたちが、心身ともに健やかに育つ

手段：

保健・福祉・教育と連携した年中児健診

対象：町内にある保育所・幼稚園に通う年中児 87名（保育所4ヵ所・幼稚園1ヵ所）

スタッフ：医療関係（小児科医師）教育関係（教育委員会指導主事、小学校長、SSW）

福祉関係（保育所長、担任保育士、子育て支援保育士）保健関係（臨床心理士、保健師）

方法：

① 事前アンケート実施（SDQ、独自に開発した家庭状況と子育て状況の分かる問診表）

② 保育所・幼稚園への巡回訪問（集団での行動観察、個別発達確認）

③ ケースカンファレンス

④ 結果に基づいた事後支援（家族への健診結果返し、就学に向けた保育の充実、家庭への教育支援）

◇結果

第1回 年中児健診 平成27年10月30日 A園 20名（男9名 女11名）

第2回 年中児健診 平成27年12月10日 B園 7名（男5名 女2名）

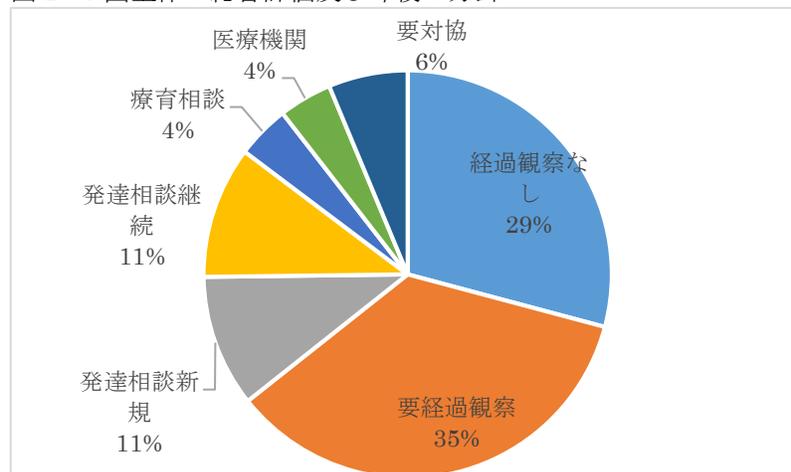
第3回 年中児健診 平成28年1月21日 C園 21名（男11名 女10名）

合計 48名（男25名 女23名）

月齢平均 5歳3ヵ月

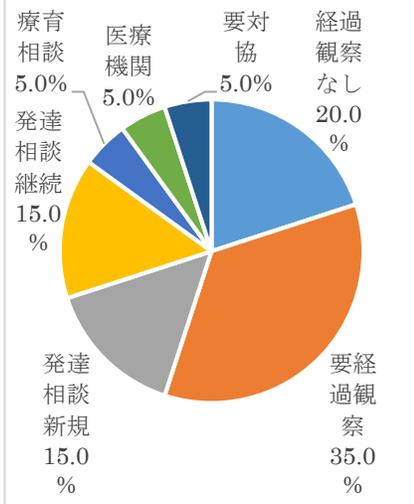
年中児健診の実施した結果及び今後の方針：

図1 3園全体の総合評価及び今後の方針

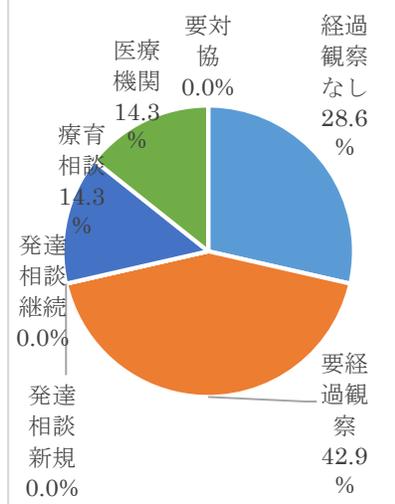


活動成果報告書

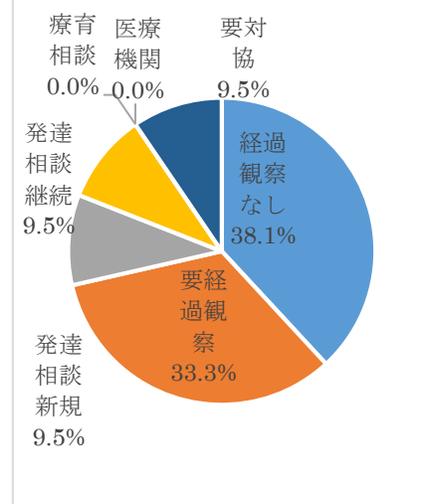
図2 A園



B園



C園



	経過観察なし	要経過観察	発達相談新規	発達相談継続	療育相談	医療機関	要対協
A園	20.0%	35.0%	15.0%	15.0%	5.0%	5.0%	5.0%
B園	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%
C園	38.1%	33.3%	9.5%	9.5%	0.0%	0.0%	9.5%
計	29.0%	35.0%	10.4%	10.4%	4.2%	4.2%	6.3%

◇成果

- ① 年中児健診を実施することにより、子どもの新たな課題が明確化された。
- ② 保護者全員に結果の説明を実施する中で、発達課題を持つ子どもについては、発達相談等の支援につなげ、家庭や保育士の関わりの仕方等具体的な指導が行えた。
- ③ 教育委員会や各学校長が参加し共に子どもを見ることにより、現在の子どもの状況と課題が共有できた。
- ④ 小児科医師が参加することにより、体格・運動機能、聴力・視力、神経学的な発達等総合的な観察が可能となり精密検査が必要な子どもについては、医療機関を紹介し経過を追跡している。
- ⑤ 発達相談員が参加することにより、集団の保育の中では表面化されていなかった子どもの精神的な課題が発見され、それらの対応についても検討できた。
- ⑥ 各保育園・幼稚園毎の全体の特徴と保育課題が明確になり、今後の検討課題となった。

◇今後の計画

- ① 2月に実施予定の2園が未実施であるが、5園全園終了した時点で参加した各機関が集まり、年中児健診についての効果判定と課題・次年度の実施等についての計画を検討する。
- ② 全体の結果データの分析と課題を明確化する。
- ③ 今回の実施により、健全な幼児期を迎えるために乳児期に身に付けたいこと、また健全な学童期を迎えるために幼児期に身に付けておきたいことが明確化できたので、今後、乳児期からの保健指導に役立てていきたい。